

平成 2 9 年第 5 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 9 年 9 月 4 日 (開会)

平成 2 9 年 9 月 1 4 日 (閉会)

13時00分 再開

○議長（小林信） 再開いたします。休憩以前に引き続き一般質問を行います。

○議長（小林信） 北林義高君からの質問の通告がありますので、発言を許します。3番、北林義高君。

（3番 北林義高議員 一般質問席登壇）

○3番（北林義高） それでは、林道、作業道の管理についてお聞きします。

村長は、日頃から100年計画で山を動かすと話しておりますが、村は95%が山林原野で、75%が国有林、残りの25%が村、民有林となっております。山を動かすことは大切なことです。

少し前までは、原木の価格も高く、村や各集落、個人でも大きな収入となっていました。山を大切に思い、植え付けから下刈り、枝打ち、間伐などを行って大事に育ててきました。

今では、原木の価格が下がって、間伐や作業道の補助金がなければ赤字のような状態です。それでも大きな面積を持っている村や集落は収入を得て集落を維持していますが、個人の場合は、まとまった面積を持っている人は少なく、1人では林があっても処分できません。隣地同士をまとめて団地化を進め、林道、作業道を作り、少しでも収入を多くしようと進めていますが、なかなか進まないように思います。

村には、森林管理署で管理する林道、作業道と村で管理する林道、作業道がありますが、森林管理署では、事業があれば補修を行います、無ければそのままです。それでも全部ではありませんが草刈りなどを行っています。

村管理を見ても草木が生えていたり、法面が崩落して車の通行ができない所もあります。林道、作業道の新設を行っても、後の管理が悪ければすぐに通行ができなくなります。草木も小さいうちは、ブッシュで払うだけで済みますが、2、3年もするとチェーンソーが必要となります。

村道のパトロールは委託して報告書が出ていますが、作業道はどうでしょうか。使用する時にと思っているかもしれませんが、遅くなるほど費用もかかります。村にも臨時の作業員もいますが、作業員だけで間に合わないのであれば、各集落や業者に委託を考えてみてはどうでしょうか。

県でも県道の草刈りを集落や団体に委託しています。林道も前には春になるのを待って土砂の除去を行い、通行できるようにしていましたが、今は遅くなっているように思います。林道の補修なども側溝は手付つかずのままです。砕石を入れてローダで敷き均しをしても、雨が降る度に道路を流れてすぐに穴になります。

前にも質問しましたが、グレーダの使用を考えてみてはどうでしょうか。グレーダをかけることで側溝も掘ることもできます。路盤整正もでき傷みも少な

くなります。毎年は無理でも2、3年に1度でも計画してみても如何でしょうか
村長、お答えください。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 林道、作業道の管理についてのご質問であります。

現状からお話をさせていただきますと、村で管理している林道は、現在、27
路線 43,752m。また、間伐事業等の実施に伴う開設した作業道は34路線 28,770
mであります。

林道につきましては、4月から職員によるパトロールを毎月実施して、草刈
りや補修等の維持管理をしております。

作業道については、間伐事業や皆伐事業の目的で開設したものであり、下刈
り等の保育事業が完了すると、通年の維持管理を実施していないのが現状であ
ります。

今後の維持管理につきましては、基幹的な路線の草刈り等を実施し、間伐事
業等の実施計画に基づきまして維持管理を進めていきたいと考えておりますの
で、ご理解をいただきたいと思えます。

また、作業道の整備を集落等に委託の検討でございますけれども、作業道に
ついては、現時点では、先ほど申し上げたとおりであります。林道については、
今後、検討させていただきたいと思えます。また、重機、グレーダ等による機
械の使用につきましては、今年度につきましては、バックホーによる借り上げ
を実施しまして、道路等の整備をさせていただいておりますので、ご理解をい
ただきたいと、必要に応じてバックホー、グレーダ等で対応したいというふう
なことでありますので、よろしくご理解をいただきたいと思えます。

○議長（小林信） 北林義高君。

○3番（北林義高） 今、村長がバックホーなどで整備をするという話でござ
いりましたが、バックホーだけでは、やっぱり側溝を掘るのはなかなか容易でな
いと思えます。グレーダをかけることによって道路の両脇に水が流れるようにな
って、道路の傷みがすごく押さえられます。

近年、木材の利活用の研究が進み、集成材加工やCLT、バイオマスエネル
ギーなどの需要がわずかずつ増えています。秋田杉の燃えにくい柱や梁なども
開発され、来年開業する能代市の「道の駅ふたつ」に耐火柱の導入が決まり、
3、4階建ての木造建築などの実現も目指しています。もう少し早ければ村の集
住型宿泊交流拠点施設にも導入できたかもしれません。

沖田面にできた森林管理署上小阿仁支署にも、たくさんの木材が使われてい
ました。宿泊型ではありませんので、村の集住型宿泊交流拠点施設とは比較で
きませんが、素晴らしい建物になると思えます。

村にもたくさんの山林があります。山を動かして少しでも収入を増やす雇用が生まれような施策をお願いいたします。

お答え願います。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 重機の関係につきましては、路面の状況等によって使い分けをして、有効活用させていただきたいと考えております。今年度については、バックホーによって対応しているというふうな状況ですので、来年以降、これからグレーダが必要な部分についてはグレーダで対応するというふうなことになると思っております。

木材の活用によって雇用の創出というふうなことになるかと思えます。これについては、村の現状を見た時に、少子高齢化というふうなことの状況の中で、いろんな施策を講じながら雇用を増やさないといけないというふうな時に、上小阿仁村で唯一あるのが、誇れるのが山林というふうな状況で考えております。そういう意味では、今活用されずに山林があるわけですので、この山林を何とかして有効活用しながら、雇用に結び付けたいということで、議員からも言われたとおり村の100年計画、そして林業の成長産業化、モデル事業というふうなことを絡めながら山の川上の部分、そして川下の部分について施策を講じていくと、施策の一つとして今集住型の宿泊交流拠点施設があるということでもあります。それを絡めながら、移住定住も含めて雇用拡大につなげていきたいというふうに考えておりますので、是非ともご支援、ご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 北林義高君。

○3番（北林義高） 是非とも、村の山林有効活用を目指して雇用も生まれるような施策を、よろしく願います。

これで私の質問を終わらせていただきます。